

「木岡哲学対話の会」2019年度下半期（10月～3月）
予定表

| 開催日 | 出演者（所属） | テーマ | 内容 |
|--------|----------------------------|-----------------------------|--|
| 10. 25 | 狭間香代子 （関西大学社会 健康学部） | 風土学理論の ソーシャルワーク 論への適用 | ソーシャルワークが日本社会に定着する過程で、わが国の生活文化に適した変容が生じている。風土学理論を援用して、わが国への適用について論じる。 |
| 11. 22 | 共著者有志 | 『〈縁〉と〈出会い〉の風土学』 合評会 | 10月刊行の編著に協力した執筆者の有志が登場して、それぞれの寄与について語る。次いで、参加者からの感想・批評を受けつつ、意見交換を行う。 |
| 1. 24 | 宮本要太郎 （関西大学 文学部） | 宗教の公共性 について | 宗教の「公共性」をテーマとして、社会を超越した地平と関わりながら、社会に関与していくという宗教の葛藤を、風土学の観点から創造的に捉える。 |
| 2. 28 | 若森章孝 （関西大学経済 学部名誉教授） | 「持続可能性」 の経済学と 21世紀の課題 | 経済的自由主義のもとで見落とされてきた、自然や社会の「持続可能性」の視点を経済学に導入した、ポランニーや宇沢弘文の思想を紹介しながら、21世紀の課題について考える。 |
| 3. 13 | 木岡伸夫 （関西大学 文学部） | 風土学の現在 とこれから | 風土学の基本的理念の解明（9月）を受け、関連諸科学・研究者との連携の現状、今後の社会的活動の展望などを、具体的に明らかにする。 |

[注意]

- ・会場は、吹田市サンクスホール第二会議室（JR吹田駅構内）。
- ・開催日時は原則として、各月第4金曜18時—20時。主催者・ゲストの事情、会場予約の都合等により、変更される場合があれば、事前にお知らせします。
- ・参加費は、毎回500円（会場費・資料代）。
- ・世話人は、北原慎司（shinji-k69326@softbank.ne.jp）、藤田タケ子（fujiko@mstkikaku.com）の両氏。会の趣旨やプログラムについては、木岡（n.kioka@s3.dion.ne.jp）まで、参加の要領や会の運営については、世話人の両氏までお尋ねください。

出演者のプロフィール

狭間 香代子 (はざま かよこ)

広島県生まれ。関西大学人間健康学部教授。大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程を修了し、博士(学術)を取得。専門は社会福祉領域での援助方法論であるソーシャルワーク論。主な著書には、単著として『社会福祉の援助観 ストレングス視点・社会構成主義・エンパワメント』(2001)、『ソーシャルワーク実践における社会資源の創出』(2016)、編著としては『現代の福祉実践』(2017)等々。

宮本 要太郎 (みやもと ようたろう)

宮崎県生まれ。関西大学文学部教授。筑波大学大学院哲学・思想研究科博士課程修了。博士(文学)。専門は比較宗教学であるが、とくに聖伝論、民衆宗教論を中心に研究。近年は宗教の公共性に関心を持っている。主な著書は、『闇と光——金光教の信仰から見た現代』(2018)、『聖伝の構造に関する宗教学的的研究——聖徳太子伝を中心に』(2003)、『宗教と宗教学のあいだ——新しい共同体への展望』(2015、共著)、『語られた教祖——近世・近現代の信仰史』(2012、共著)など。

若森 章孝 (わかもり ふみたか)

[略歴]

1944年12月浜松市生まれ

1970年 名古屋大学大学院経済学研究科修士課程修了

1971年 関西大学経済学部助手

1984年 関西大学経済学部教授

2014年 定年退任、関西大学名誉教授

[いま考えていること]

- ・資本主義に代わるシステムはあるか

[主な著訳書]

- ・『新自由主義・国家・フレキシキュリティの最前線 グローバル化時代の政治経済学』晃洋書房、2013年
- ・『壊れゆく資本主義をどう生きるか』(共著)唯学書房、2017年
- ・『資本主義に未来はあるか』(共訳)唯学書房、2019年